

年間第25主日の説教

金 大烈 神父 2011年9月18日(日)

《真の希望は、真の愛の中でのみ可能 ～一人も失いたくないイエス様の愛～》

今日の福音(マタイ 20・1 - 16)は、言葉どおりに理解できると思います。しかし実際には、いろいろな解釈ができる物語です。

私が考えた今日の福音のテーマは、“神様が誰にたくさんの恵みをあげたのか”ということではありません。今日の福音を読んで私たちが必ず考えなければならないのは、“見失った一匹の羊を探してさまよっている神様のみ心”です。「一人も失いたくない気持で私たちを見ているイエス様のみ心をいつも意識しましょう。」と言っているのだと思います。

では、『一人も失いたくない』という心に対して、私たちはどのように応じているのでしょうか。それを考えるために言葉を作ってみました。

「真まことの希望は、真まことの愛の内だけで可能になります。これがまさに我らの信仰です。」

この言葉の意味は、すぐには分からないと思います。同じ希望でも、変わってしまうものを望む希望と、変わらないものを望む希望があります。そして希望自体にも変わってしまう希望と変わらない希望があります。私たちが最後まで持ち続けなければならないのは、変わらない希望です。それを『真まことの希望』と言います。そして「真まことの希望は、真の愛の内だけで可能になります。」『真まことの愛』とは、どういう意味でしょうか。『真まことの愛』に代わる言葉は『イエス・キリストの愛』です。私たちが今までに体験した完璧な愛は、今のところイエス様の愛しかありません。

ですから、真の希望、本当の希望を持って生きるためには、私たちカトリック信者は、キリストの内に留まる方法しかない、ということです。いろいろな困難にぶつかった時、どうしたらそこから逃げられるのでしょうか。逃げることはできません。また別のもっと大きな困難が襲ってくるのです。私たちが逃げる必要もなく、正々堂々と困難を迎える力をいただくためには、私たちは真の愛、キリストの「一人も失いたくない」というみ心の内に留まらなければならないのです。それが私たちの信仰です。

もう一度一緒に読んでみましょう。

「真の希望は、真の愛の内だけで可能になります。これがまさに我らの信仰です。」

カトリックは、希望の宗教と言われていています。希望の中にいなければ、絶対に喜びを感じられません。私たちがご聖体をいただくのも、そこに希望があるからです。神様と一体になる、一致する、という強い希望があるから、私たちは喜びを感じるのです。

もう一度申し上げます。

変わるものに命をかけないでください。喜ぶならば、変わらないもののために喜んでください。悲しむならば、変わらないもののために悲しんでください。それ以外は、無駄なことなのです。

ありがとうございました。